

環境省 持続可能な開発目標（SDGs）活用した  
地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業  
＜令和元年度 事業計画＞

# ローカルフード サイクリング美和台

NPO法人循環生活研究所

2019.5.7.

# ①取組で目指す地域像

2022年度末  
地域の状態

- ・「生ごみの地域内循環」という新しい自治のしくみが確立され、持続可能な地域・資源管理が実現される。
- ・コンポストクルー、菜園クルーの継続的な養成と雇用がある。活躍の場の創出。
- ・コミュニティの主体的な動きにより、住民の病気が予防され、身体的・精神的な健康が促進されている。
- ・循環型による自給自足が進み、自ら野菜づくりに取り組む人や地域貢献する人が増える。

2019年度末  
地域の状態

- ・多世代、複数事業者によるコミュニケーションが創出され、孤立する高齢者が減少する。また、それに携わる人材育成・雇用が創出される。
- ・焼却される生ごみや落ち葉、雑草量の減少、CO2排出量や処理費用の削減に貢献。また、枯渇資源であるリンは生ごみに含まれるため資源の地域内確保が進む。
- ・現在管理放棄されているは庭や畑が生産農地として活用され、野菜が地域内で流通するしくみが確立する。
- ・各家庭で良質な生ごみ堆肥が作られ、地域内の還元農地に使われる。この仕組みに関わる住民が増える。

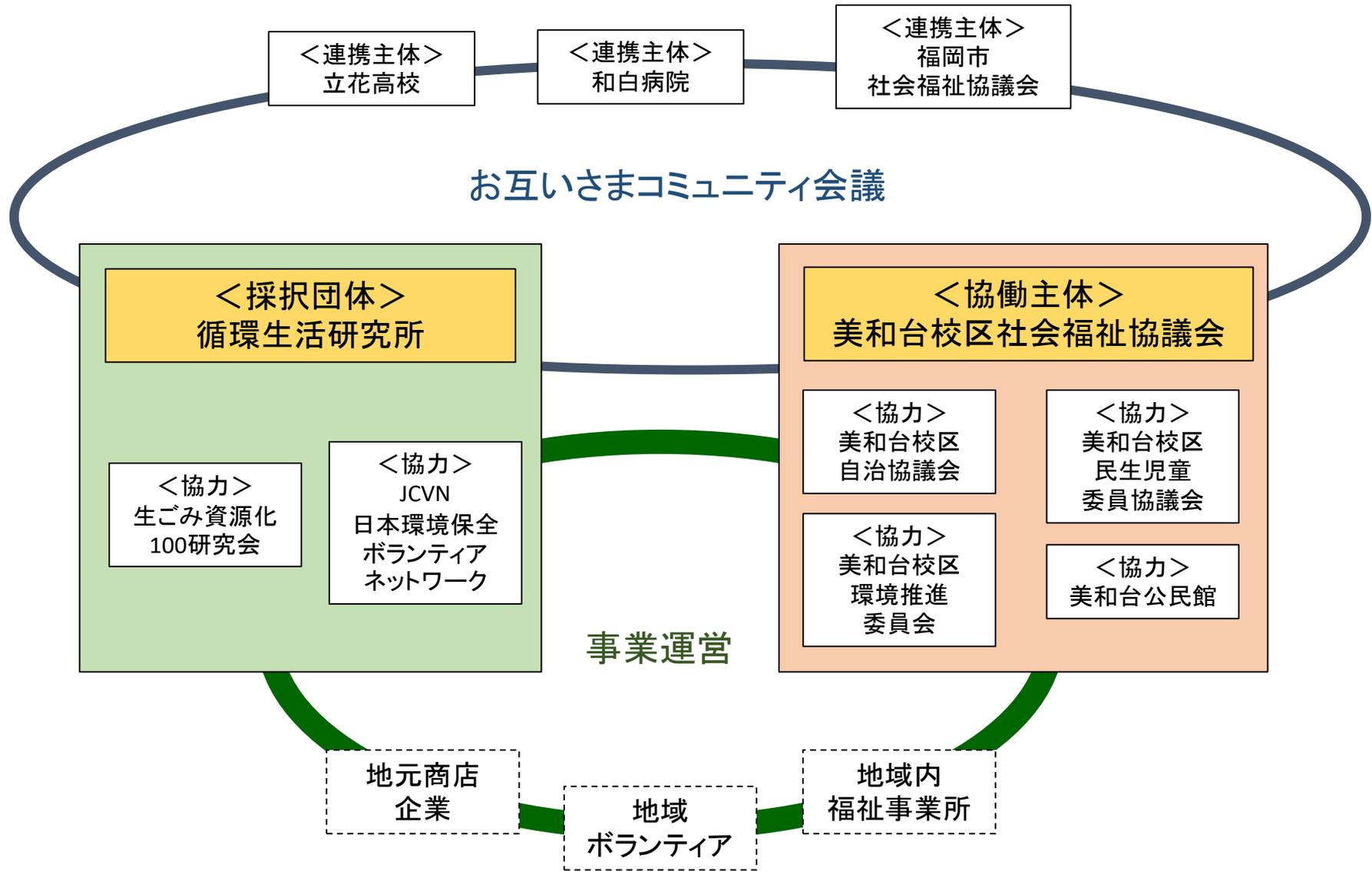


2018年度末  
地域の状態

- ・コンポストを100世帯に設置。見守りを兼ねたコンポスト手入れ巡回が実施され、会員の異変等は地域の民生委員や公民館等へ情報共有する仕組みができつつある。
- ・コンポストの設置が進んだことにより、2018年度のみで4トン以上の生ごみ、1.43tのCO2を削減した。
- ・できた堆肥を活用する菜園を、5か所の庭や放置畑に設置。循環野菜を育成し、地域で販売する取り組みが進んでいる。



## ② 運営体制の整理（ステークホルダーとの関係性）



### ③ 2019年度末までの到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
<p>【取組課題①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化に伴うコミュニティの希薄化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者向けのダンボールコンポストを130世帯に設置。高齢者の安否確認や声掛けを兼ね、コンポストクルーがメンテナンス等のため週1回程度地域を巡回する。</li> <li>・巡回するクルーを育成し、5名の新規クルーが活動に参加する。</li> <li>・菜園の一部をコミュニティ化し、地域住民30名が菜園づくりに関わる。地域住民の身体的・精神的な健康を促進する。</li> <li>・コンポスト会員を対象としたイベントを開催し、会員によるコミュニティを形成する。</li> <li>・会員サービスと会費を検討、できた堆肥の販売等を検討し、今後も事業を円滑に進めるための資金調達の方針を決める。</li> </ul>
<p>【取組課題②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ減量・資源循環</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンボールコンポストを設置し、コミュニティ内での堆肥化が進むことで、2年間で生ごみを約22t資源化、CO2を7.7t削減する。</li> <li>・5世帯の庭の一部を菜園とし、地域内で作った生ごみ堆肥を使って野菜を育てる。枯渇するリンを輸入に頼らず循環させる農業をコミュニティ内で実践する。</li> <li>・木枠コンポストを菜園や公園に試験的に設置し、落ち葉や雑草の堆肥化を進める。落ち葉・雑草を約25㎡回収し、約10㎡の堆肥を作る。</li> </ul>
<p>【取組課題③】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康と食がかい離し暮らし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庭で育てた野菜を販売するマーケットを定期的で開催し、循環経済が活性化する。マーケットを拠点とした住民の交流が生まれる。</li> <li>・コンポスト会員の3割（39軒）が堆肥を自宅で活用し、野菜を育てる。</li> </ul>



### ⑤ 2カ年事業計画（H30.8）からの変更点

計画の変更点（項目）	変更した理由
<p>目標数値 コンポスト設置軒数 2カ年で200軒 ↓ 2カ年で130軒</p>	<p>軒数を増やすことよりも、しくみを見直し、地域の課題を拾い出すことやニーズに応えること、この事業の継続の方法など、課題を解決するための基盤固めに注力するため。</p>
<p>目標数値 新規雇用2名 ↓ 新規クルー5名</p>	<p>現時点では、当事業での予算と会費収入以外の収入はなく、今年度中の雇用は難しい。ボランティアで菜園やコンポストの活動に協力する人を増やすことを今年度の目標とする。</p>
<p>民生委員との連携強化</p>	<p>事業実施前には想定していなかったが、現場で個別の高齢者の事情を良く把握しており、万一なにかあった時に連絡する窓口となる。また、コンポストを実践したり、担当の高齢者をご紹介いただけの方も多し。民生委員との役割分担などが地域のニーズとして今後表面化すると思われる。</p>
<p>対象者年齢層の拡大 65歳以下の世帯にも普及する</p>	<p>65歳以上のみへの普及では先細りするので、若い世代へも普及し担い手を増やすべきとの地域の声を反映。</p>
<p>落葉回収・堆肥化のスキーム</p>	<p>地域より、公園の落ち葉（松葉）や雑草を引き取らないかと打診があったり、会員宅で自宅の落ち葉処分に悩んでいるとの声があったことから、落ち葉を回収するしくみのニーズがあると考えている。生ごみコンポストは置かないが、落ち葉を提供したい（＝処分に困っている）人は多いと思われるため、これまでのコンポストと同様のしくみでできないか検討したい。 ※福岡市では、自宅から出る落ち葉、剪定枝、雑草などは燃えるごみとして焼却処分している。</p>

## ⑥ その他補足事項

### ■ 事業を進める上での課題やリスクとその対策

- ・ 高齢者宅へ立ち入ることに不安を感じる人がいる

→最初の訪問は女性スタッフまたは申込時に顔を合わせたスタッフが行う。訪問曜日と大まかな時間を事前に決め、説明する。訪問するスタッフ数は最大2名。視察などの受け入れは一人暮らしの高齢者宅は避け、了解を得たお宅のみに何う。スタッフによって訪問エリアを決め、原則そのエリアを変動させない。など。

- ・ 事業費の資金調達と3年目以降の事業継続の姿について考えるべきであるが、2カ年ですべて整理するのは難しいと思われる。

→今後のことをどう決めていくか美和台社協と相談し、コアメンバーの意見をもらいながら進める。

### ■ その他、留意事項などがあればお書きください

・